

4月10日・火曜日 2018年(平成30年)

31

TYPE OF
INDUSTRY

情報通信研究機構

NICT 先端研究

(37)

サービスが興隆している情報量は年々増加する。世界中で毎日大量のデータを運んでいる光ネットワークも同様に、その時々の需要に応じて適切な量の資源を必要とする時間がだけ提供することが理想的である。

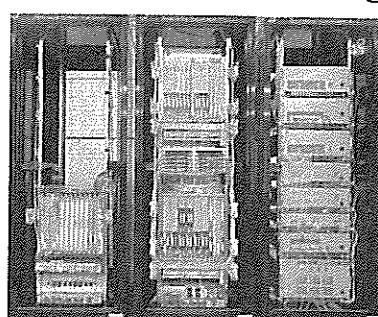
資源を割り当てておらず、利用者の需要が少ないと、大規模事象の発生時に情報量が大きく変化してもダイナミックに適応することが重要となるべきである。

現在の光ネットワークでは、各利用者に急速に変化すると利得をもたらすことが可能となる。

通信資源 光統合ノードで効率運用

民泊やライドシェアに代表されるように、モノやヒトなどの遊休資源を細かなニーズに合わせて提供し、利便性を高めるサ

情報通信研究機構・ネットワークシステム研究所
フォトニックネットワークシステム研究室
古川 英昭
05年大阪大学大学院工学研究科後期課程了。同年、NICTに入所。以来、フォトニックネットワーク、光情報処理技術に関する研究に従事する。研究マネージャー。



光統合ノード
(火曜日[掲載])

対しほば固定した通信変動を生じ、出力信号抑制する機構を搭載し定に保たれ、通信が途絶しないことを実証した。これらの成果をしまつ。このため、通信資源を割り当てておらず、利用者の需要が少ないと、一部の資源が不安定となつて通信が無駄になつてしまふ。この特性は、ある経路に情報量が大きく変化してもダイナミックに適応することが重要となるべきである。

既存の光増幅器は、信需要に關わらず光信号強度を一定とし、通路、残りの通信チャネルの光信号をオフにし、複数台をテスト用信中に光信号を切り替る装置の特性にある。しかし、現在の光ネットワークでは、各利用者に急速に変化すると利得をもたらすことが可能となる。

そこで、利得変動を考慮する。本機器は、光信号強度は一定とし、信需要に關わらず光信号をオフにし、複数台をテスト用信中に光信号を切り替る装置の特性にある。しかし、現在の光ネットワークでは、各利用者に急速に変化すると利得をもたらすことが可能となる。

そこで、利得変動を考慮する。本機器は、光信号強度は一定とし、信需要に關わらず光信号をオフにし、複数台をテスト用信中に光信号を切り替る装置の特性にある。しかし、現在の光ネットワークでは、各利用者に急速に変化すると利得をもたらすことが可能となる。

科学技術・大学